



JFS-B 規格を取得しさらなる信頼向上へ！



JFS-B 規格適合証明取得 サンパック株式会社（食用海苔の加工）

サンパック株式会社様は、福岡県筑後市に本社を構え、化粧箱やラベルシールといった包装資材の製造・販売を中心とした事業を展開しておられます。食品メーカーとの取引実績が豊富であり、クライアントからも包装資材の品質を高く評価されています。3年前から食品加工の分野にも進出し、社内に食品加工部を設けました。主に海苔の加工を行っており、海苔メーカーから原材料を委託され、福岡の工場では味付け・裁断・包装まで一貫して行っています。包装資材の製造で培った高い技術を存分に活かし、食品加工の分野においても着実に実績を積み重ねています。取引先の中には有名海苔メーカーも含まれ、売上も順調に伸びています。2024年2月に、食品加工部においてJFS-B規格を取得されました。今回は、取得に至るまでの取り組みを現場で主導された松永崇宏様（執行役員 営業本部長）に取得の目的や今後の展望などについてお話をうかがいました。



営業本部長
松永崇宏氏

—JFS-B 規格を取得された目的をお聞かせください。

松永：クライアントである食品メーカー様のご期待に、より高いレベルでお応えしたいというのが最大の目的ですね。海苔というものは、基本的に開封したら加熱したりせずにそのままエンドユーザーの体内に入ります。ですから、衛生面については徹底的に気を付けてきました。さらに高いレベルでお応えするには、信頼に足る認証（適合証明）を食品加工部において取得する必要があると考えました。

—JFS-B 規格を知った経緯について教えてください。

松永：当社の社員が展示会で食品安全マネジメント協会のブースに立ち寄り、そこで話を聞いてきたのがきっかけですね。認証（適合証明）の知名度を広めるために様々な展示会に出展されているなという印象です。

—様々な認証（適合証明）がありますが、JFS-B 規格を選択した理由をお聞かせください。

松永：食品加工に関する認証（適合証明）の中で、最も取り組みやすいと感じたのがJFS-B規格でした。当社は食品加工の事業を始めてから3年しか経っていません。決してその分野における経験が豊富にあるというわけではないのです。ですから、可能な限り取り組みやすい認証（適合証明）である必要があると考えました。いきなり難しい認証（適合証明）にチャレンジしても挫折してしまいますからね。JFS-B 規格は日本生まれの認証（適合証明）ですから内容も分かりやすく、ガイドラインも細かい部分までしっかりと書かれているのが良いですね。求められるレベルも決して高すぎるというわけではなく、これなら大丈夫だと判断しました。



—同業他社の中に JFS 規格を取得された企業はあるのでしょうか。

松永：私が知る限りの話になりますが、取得している企業はありますね。やはり、社会全体で食品衛生に対する意識が高まっているので、どの会社も認証（適合証明）の取得には前向きだという印象です。どの認証（適合証明）を取得するかを検討する時は「クライアント様から信頼される認証（適合証明）かどうか」が判断基準になりますが、その基準において JFS 規格を選んでいる競合他社が多いと感じています。

—JFS-B 規格の取得に対する、現場の社員の方の反応はいかがでしたか。

松永：中には戸惑ってしまう社員もいました。もともと食品加工をやっていた会社ではないので、JFS 規格のような認証（適合証明）に馴染みがない社員が少なくありません。認証（適合証明）を取得するには現場の社員の協力が必要不可欠なので、とにかく JFS-B 規格に

ついて丁寧に説明しました。海苔を完成品にまで仕上げるプロセスを認証（適合証明）のルールに従って管理すれば不手際もなくなるし、作業の効率化にも繋がるという事をしっかりと伝えました。取得のメリットが伝われば、社員はちゃんと納得してくれました。JFS 規格の取得に関しては、管理職が現場の社員に向き合い、丁寧に説明する事が大切なのではないでしょうか。

—JFS-B 規格を取得する取り組みの中でどのような工夫をされましたか。

松永：認証（適合証明）の取得を目指すにあたって、新たに品質管理の部署を設けました。当社は食品加工の事業を始めてまだ3年しか経っていないので、これまでそのような部署がなかったのです。品質管理の部署を新たに設け、そこに人材を投入するのですが、最初から順調に進んだわけではありません。投入された社員は未経験の業務を行うわけですから、認証（適合証明）の取得に必要な書類の作成などにも慣れていないのです。しかし、慣れないながらもみんな前向きに業務に取り組んでくれたおかげで、無事に取得する事が出来ました。取得の時期が予定より遅れてしまったわけではないですし、社員の協力があれば、認証（適合証明）の取得に慣れていなくても十分に取得可能だと考えています。社員も新しい業務を経験出来ましたから、貴重な成長の機会になったのではないのでしょうか。

—JFS-B 規格の取得に対するクライアント様の反応をお聞かせください。

松永：海苔メーカー様からはポジティブな反応をいただきました。クライアントから何らかの認証（適合証明）を取得して欲しいとお願いされたわけではなく、当社判断で取得に向けた取り組みを進める事になったのですが、やはり海苔メーカー様も食品衛生に対する意識はかなり高いですね。最終的にはエンドユーザーの利益に繋がりますし、信頼に足る認証（適合証明）を取得すると聞いてネガティブな反応を示すクライアントはいないのではないのでしょうか。

—今後、JFS-B 規格をどのように活用していこうとお考えですか。

松永：今後は海外への輸出業務に携わる事も視野に入れています。新たに設けられた食品加工部ですが、幸いな事に売上也順調に伸びており、会社全体の売上に占めるウエイトも年々高くなっています。さらに売上を増やすためにも、国内用だけでなく、輸出用の海苔加工にも携わる必要があると考えています。実際に現地で海苔を販売するのはクライアントである海苔メーカー様ですから、当社はクライアントが安心して海外で販売出来る海苔を提供するのがミッションです。輸出業に携わるためにも、今後は JFS-C 規格といったさらに上級の認証の取得を検討しています。可能であれば、1~2 年以内を目途に取得したいですね。

—これから JFS 規格の取得を検討している他の企業に対するメッセージをお願いします。

松永：食品に携わるどの企業も衛生に対する意識は高いと思うのですが、まだ信頼に足る認証（適合証明）を取得していない企業もあります。JFS 規格は分かりやすく、抵抗なく取り組めるので、何かしらの認証（適合証明）の取得を検討している企業は、JFS 規格について前向きに考えてみても良いのではないのでしょうか。

—本日はありがとうございました。



Company Profile

社名 サンバック株式会社
代表 増田 淳
住所 〒833-0032
福岡県筑後市野町 500
創業 1972 年 11 月
URL <https://sunp.mpx-group.jp/>